

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ ―― ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

第13期前期 開講講座

5月12日(土) 午後1時～
武井昭夫と吉本隆明

報告＝湯地朝雄（文芸評論家）
進行＝立野正裕（明治大学教授）

1、改憲無風状況を打ち破ろう

憲法審査会が衆参両院ともすでに7回を超える審議を展開し、壊（改）憲派委員からの「そろそろ話を詰めていく段階」（小沢鋭仁民主党議員）との発言も出ている。「新型インフルエンザ特措法」が衆院を通過しているように、立法化による市民運動・労働運動を抑えこむ明文壊憲の動きも現実化している。壊憲勢力の多面的・持続的な攻撃に抗しうる講座としたい。

- 5月18日(金) 原発なくせ！ストップ憲法審査会 国民投票法撤廃5・18集会 (HOWSも実行委に参加)

自民党新憲法案を読む

- ①6月9日(土) 狙われる96条の優先改憲 ―― 壊憲攻撃の突破口としての本質 講師＝萩尾健太(弁護士)
- ②6月16日(土) 憲法と9条、「緊急事態」の意味 ―― 「戒厳令」体制の出現を許すな 講師＝加藤晋介(弁護士)
- ③6月30日(土) 理念もなく、現実も見ず ―― 前文改憲にみられる人権と平和感覚の欠落 講師＝前田 朗(東京造形大学教授)
- ④7月11日(水) 戦後改憲史のなかの自民党憲法改正草案 講師＝渡辺 治(一橋大学名誉教授)

2、新自由主義と闘いうる労働運動再建のために

労働運動を社会運動として取り組んだ反貧困運動等の政策対置・参加型「おまかせ民主主義」は、ついに橋下・「維新の会」の台頭までも許している。もの言わぬイエスマン労働者・労働組合がますます労働現場にはびこっている。政労資協調・第二労務課路線に明日はない。いっぽう、EUのギリシャ・スペインでは若者の失業率50%超となり、その対策にいっそうの雇用緩和と攻撃がかけられている。これに「ノー」を主張し、ゼネストで苛烈に闘っているPAMEも苦闘している。しかし、団結・団交・争議権を駆使して闘う以外に労働運動の後退、社会の閉塞状態を打ち破ることはできない。職場で闘う活動家を迎えて、ともに論じよう。

- ①7月4日(水) PAME(全ギリシャ戦闘的労働者戦線)の闘いに学ぶ 講師＝新田 進(労働運動家)
- ②8月4日(土) 公務員攻撃の歴史と現段階 講師＝藤本愛子(国公労連) 朝生 進(全農林労働組合)
- ③9月8日(土) 郵政職場での労働組合運動の可能性 ―― 労働者の生活・安全無視の郵政に抗して 報告＝下見徳章(『伝送便』編集委員) 丸山小次郎(期間雇用労働者)
- ④9月19日(水) 教育現場で労働運動を！ 報告＝藤原 晃(神奈川高教組)

3、大震災から1年以上、被災地で何が起きているのか

昨年12月政府は早々と「事故収束宣言」をした。これほど現地、現場をバカにした話はない。憲法13条の幸福追求権、25条の生存権、29条の財産権などを奪われ、地域社会を破壊された福島は原発植民地そのものだ。被害者を置き去りにし、大企業のための復興予算、原発再稼働、原発輸出。野蠻な資本家階級のもくろみに終止符を打つ闘いを構築しよう！

- ①6月27日(水) 「ミンダナオ化」に向かう震災復興 ―― 被災地からの現地レポート 講師＝金野正晴(自営業)
- ②7月14日(土) 福島原発事故から1年以上が過ぎて ―― 進めぬ復旧、翻弄される住民 講師＝国分富夫(南相馬からの原発避難者)
- ③8月25日(土) 福島原発事故被害者が泣き寝入りしない闘いを！ ―― 田中正造の「鉱業停止論」と公害・原発反対運動の歴史から学ぶ 講師＝菅井益郎(国学院大学経済学部教授) 市民エネルギー研究所
- ④9月15日(土) 被ばく労働者の命と権利を守る闘いを！ ―― 記録映画「原発はいま」(1982年／49分／制作：運輸一般閣(西地区生コン支部、映像集団8の会) 上映と討論 ゲスト＝なすび(被ばく労働を考えるネットワーク・山谷労働者福祉会館)

4、日本の短編小説を読む

今期は、戦前から戦中、戦後にかけて書かれた短編小説のなかから、民衆の生活に即してそれぞれの時代の日本の現実を浮かび上がらせるような作品を四編選んで読むことにする。(各回午後7時～)

講師＝立野正裕(明治大学教授)

- ①5月23日(水) 加能作次郎作『母』(『世の中へ・乳の匂い 加能作次郎作品集』収録、講談社文芸文庫)
- ②6月13日(水) 八木義徳作『劉廣福』(『波 百年文庫48』収録、ポプラ社)
- ③7月18日(水) 江戸川乱歩作『防空壕』(石田衣良編『危険なマッチ箱』収録、文春文庫)
- ④9月5日(水) 佐多稲子作『疵あと』(『戦後短編小説再発見17 組織と人間』収録、講談社文芸文庫)

5、時代を変革する芸術

現状を否定し変革する(創造)の芸術はいかにして可能か。〈啓蒙〉ではなく、労働者が自己を再発見し、みずから立ちあがるような(創造)的文化運動の萌芽をさぐる。

- ①6月2日(土) 『よろこび』(脚本・監督：松村浩行 1999年 32分) ゲスト＝松村浩行(映画監督)
- ②6月20日(水) 抵抗の文学としての川柳 ―― 鶴彬の実践 講師＝榭沢 健/乱鬼龍/笑い苺
- ③8月19日(日) 美術館案内と合評 案内＝金山明子(画家)／金山政紀(画家) ※ 詳細については、追ってお知らせいたします。
- ④9月30日(日) 韓国に学ぶ運動と美術表現 講師＝古川美佳(韓国民衆美術)

6、戦後日本の分岐点 ―― サンフランシスコ講和条約を問う

1951年9月にサンフランシスコ講和条約と日米安保条約が締結され、翌52年4月28日に両条約が発効した。以来60年間、敗戦からこんにちにいる戦後日本の分岐点になったサンフランシスコ講和条約と日米安保条約の意味を、沖縄と朝鮮から逆照射し、日本社会のこれからを考える。

- ①5月26日(土) サンフランシスコ講和条約発効と沖縄の戦後 ―― 沖縄切捨ての60年と復帰40年 講師＝佐々木辰夫(アジア近現代史研究)
- ②9月12日(水) 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和条約 ―― 朝鮮敵視政策で歪む日本の民主主義 講師＝下 宰 洙(元朝鮮大学校教授)

7、メディアが醸成する草の根ファシズムに抗して

朝鮮民主主義人民共和国(朝鮮)の衛星打ち上げに対する過剰報道、尖閣諸島(釣魚諸島)での中国漁船と海上保安庁巡視船との衝突事件などを使って、マスコミはことあるごとにナショナリズムを煽り立てる報道を繰り返している。この講座では、朝鮮と沖縄をめぐる問題をテーマにマスコミのもつ問題点を検証したい。

- ①5月30日(水) 朝鮮民主主義人民共和国はいま ―― 最新・朝鮮訪問(4月)報告 講師＝鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授)
- ②9月1日(土) 基地問題にみる沖縄と「本土」の落差 ―― 沖縄の記者から見た大手マスコミ 講師＝山口正紀(ジャーナリスト) 間山栄恵(『琉球新報』報道部記者)

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一
2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、湯地朝雄「プロレタリア文学運動 その理想と現実」、「花田清輝vs吉本隆明論争」、「花田清輝『近代の超克』をめぐって」、60年代の武井昭夫の仕事、浅川史『魯迅文学を読む ―― 竹内好『魯迅』の批判的検証』などを取り上げました。2011年後期は、「戦後平和擁護運動の危機と核(原爆・原発)に向き合う文学」として大田洋子などを取り上げましたが、以下も予定されています。

- 日 時＝4月29日(日) PM1:00～ <公開ゼミ> 湯地朝雄の批評精神 ―― 未来の芸術運動に向けて
- 「根本的楽天主義」の持続 ―― 湯地朝雄の批評の方法と主題 報告＝山口直孝(二松学舎大学教員) ゲスト＝湯地朝雄(文芸批評家)
- 日 時＝5月20日(日) PM2:00～
- テーマ＝「創造としての革命 ―― 運動族の文化・芸術論」(武井昭夫著)をめぐって 報告＝田中芳秀

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子
台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなものも参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを込めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。

- これまでの制作・作品には、次のものがあります。
 - 1) いま、私たちの労働現場から ―― グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
 - 2) 私たちの戦争案内 ―― 急速に進行する戦争体制づくりに抗して
 - 3) 戦争を止めよう！ ―― あなたも・日常から・世界の女性と共に
 - 4) 戦争を止めよう！ II
 - 5) いま、私たちの労働現場から II
 - 6) 私たちはどういう社会をつくりたいのか ―― 憲法改悪は誰のため？
 - 7) 憲法改悪反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
 - 8) 共闘こそ力！ ―― 壊憲を許すな
 - 9) 先に起つのは君だ ―― 戦争・失業・貧困をなくそう
 - 10) 憲法と原発 ―― 目を覚ませ！ 未来の世代のために
 - 11) 不安だらけの未来はいらない
 - 12) 利益優先の社会はいらない ―― 闘おう！ 未来のために
- HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

夏季セミナー

日時：7月28日(土)～30日(月)

夏季セミナーは、毎年泊まりがけで行なっている行事で、通常の講座と違い、講師と受講生が交流を深めるためのよい機会です。今年も、以下のテーマに加え、2～3コマの講座を計画中です。詳細はセミナーのひと月前までに決め、お知らせします。

- ①7月28日(土) 天皇の戦争責任 講師＝高嶋伸欣(琉球大学名誉教授)
- ②7月29日(日) 武井昭夫と荒川源吾 ―― 労働者が創造・批評するということ 対談＝荒川源吾(歌人、元・古河雨竜労組文学サークル)〈予定〉 鎌田哲哉(批評家、『重力』編集会議)

HOWS講座カレンダー 2012年度前期(5月～9月)

5月12日(土) 武井昭夫と吉本隆明
報告＝湯地朝雄(文芸評論家)／進行＝立野正裕(明治大学教授)
5月18日(金) 原発なくせ！ ストップ憲法審査会5・18集会 (HOWSも実行委員会に参加)
5月23日(水) 加能作次郎作『母』(『世の中へ・乳の匂い 加能作次郎作品集』収録、講談社文芸文庫) 講師＝立野正裕(明治大学教授)
5月26日(土) サンフランシスコ講和条約発効と沖縄の戦後 ―― 沖縄切捨ての60年と復帰40年 講師＝佐々木辰夫(アジア近現代史研究)
5月30日(水) 朝鮮民主主義人民共和国はいま ―― 最新・朝鮮訪問(4月)報告 講師＝鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授)
6月2日(土) 『よろこび』(脚本・監督：松村浩行 1999年 32分) ゲスト＝松村浩行(映画監督)
6月9日(土) 狙われる96条の優先改憲 ―― 壊憲攻撃の突破口としての本質 講師＝萩尾健太(弁護士)
6月13日(水) 八木義徳作『劉廣福』(『波 百年文庫48』収録、ポプラ社) 講師＝立野正裕(明治大学教授)
6月16日(土) 憲法と9条、「緊急事態」の意味 ―― 「戒厳令」体制の出現を許すな 講師＝加藤晋介(弁護士)
6月20日(水) 抵抗の文学としての川柳 ―― 鶴彬の実践 講師＝榭沢 健/乱鬼龍/笑い苺
6月27日(水) 「ミンダナオ化」に向かう震災復興 ―― 被災地からの現地レポート 講師＝金野正晴(自営業)
6月30日(土) 理念もなく、現実も見ず ―― 前文改憲にみられる人権と平和感覚の欠落 講師＝前田 朗(東京造形大学教授)
7月4日(水) PAME(全ギリシャ戦闘的労働者戦線)の闘いに学ぶ 講師＝新田 進(労働運動家)
7月11日(水) 戦後改憲史のなかの自民党新憲法案 講師＝渡辺 治(一橋大学名誉教授)
7月14日(土) 福島原発事故から1年以上が過ぎて ―― 進めぬ復旧、翻弄される住民 講師＝国分富夫(南相馬からの原発避難者)
7月18日(水) 江戸川乱歩作『防空壕』(石田衣良編『危険なマッチ箱』収録、文春文庫) 講師＝立野正裕(明治大学教授)
8月4日(土) 公務員攻撃の歴史と現段階 講師＝藤本愛子(国公労連)／朝生 進(全農林労働組合)
8月19日(日) 美術館案内と合評 案内＝金山明子(画家)／金山政紀(画家) ※ 詳細については、追ってお知らせいたします。
8月25日(土) 福島原発事故被害者が泣き寝入りしない闘いを！ ―― 田中正造の「鉱業停止論」と公害・原発反対運動の歴史から学ぶ 講師＝菅井益郎(国学院大学経済学部教授)市民エネルギー研究所)
9月1日(土) 基地問題にみる沖縄と「本土」の落差 ―― 沖縄の記者から見た大手マスコミ 講師＝山口正紀(ジャーナリスト)／間山栄恵(『琉球新報』報道部記者)
9月5日(水) 佐多稲子作『疵あと』(戦後短編小説再発見17 組織と人間)収録、講談社文芸文庫) 講師＝立野正裕(明治大学教授)
9月8日(土) 郵政職場での労働組合運動の可能性 ―― 労働者の生活・安全無視の郵政に抗して 報告＝丸山小次郎(期間雇用労働者)／郵政運動の現場から
9月12日(水) 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和条約 ―― 朝鮮敵視政策で歪む日本の民主主義 講師＝下 宰 洙(元朝鮮大学校教授)
9月15日(土) 被ばく労働者の命と権利を守る闘いを！ ―― 「原発はいま」(1982年 49分) 上映と討論 ゲスト＝なすび(被ばく労働を考えるネットワーク・山谷労働者福祉会館)
9月19日(水) 教育現場で労働運動を！ 報告＝藤原 晃(神奈川高教組)
9月30日(日) 韓国に学ぶ運動と美術表現 講師＝古川美佳(韓国民衆美術)

<夏季セミナー>

日時：7月28日(土)～30日(月)
7月28日(土) 天皇の戦争責任 講師＝高嶋伸欣(琉球大学名誉教授)
7月29日(日) 武井昭夫と荒川源吾 ―― 労働者が創造・批評するということ 対談＝荒川源吾(歌人、元・古河雨竜労組文学サークル)〈予定〉 鎌田哲哉(批評家、『重力』編集会議)

《2012年度前期募集要項》

- 定員 本科生40名(4月20日(金)より募集)
- 全講座28回(各週1～2回程度)
- 本科生は、すべての講座を受講することができます。その他、交流を深めつつ講座を集中して学ぶ夏季合宿(前期)や、懇親会などの企画があります。
- ◎聴講生20名 シリーズを問わず、自由に講座が選べる12枚綴りの聴講チケットがあります。
- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要) 受講料…前期：3万円、後期：3万円
- 前期5月、後期10月の開講時までそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…15,000円
- 聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
- 1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
- 2012年度前期の聴講チケットは、後期にも使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
- 本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
- 申込方法
- 所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項
- HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
- 講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。